

第1回検討会における主なご意見

第1回検討会における主なご意見①

＜基本的な考え方＞

- 歯科医師にも歯科衛生士にも利点があることは必要であるが、患者に利点があることが一番基本ではないか。
- オンライン診療を併用することで歯科医療の質が上がるような取組が必要ではないか。
- 基本的な考え方やルールは、既に医科が先行してるので、それに則っていくべきではないか。

＜歯科の特例＞

- 歯科診療は、患者の口腔内の治療行為や口腔衛生指導等があり、医科診療とは特性が異なる点もある。
- 歯科医師がいない病院とICTで連携し、口腔の管理を行うことができるのではないか。
- “Dentist to Patient with ○”の様々なパターンが挙げられているが、基本形態は“Dentist to Patient”ではないか。
- 現地と遠隔との間でどのように役割分担するか。
- 医療的ケア児を含む子どもの摂食機能療法を行う際、外来では本来の食べる機能が発揮できなかつたりするが、オンライン診療では普段の様子を見ることができたり、患者やその家族の体調不良による歯科診療のキャンセル等に柔軟に対応しやすかつたりする。
- ICTを効果的に活用することで、無歯科医地区の高齢者に対する歯科のトリアージや歯科医療資源の地域間格差の解消につながるのではないか。
- 歯科診療は機器等が必要なため、訪問歯科診療の際は、初回訪問時にまず口腔内を確認し、次回以降から歯科診療を行う流れが多いが、事前に口腔内カメラ等で口腔内を確認できれば、初回から必要な機器等を持っていくことができるため、有効ではないか。
- 口腔がん等の粘膜疾患をはじめ開業歯科医が判断に迷う場合に、かかりつけ歯科医と専門の歯科医師との間をICTでつなぐことができ、専門医から所見をもらうことができれば、効果的ではないか。

第1回検討会における主なご意見②

＜医療機器等について＞

- 口腔内カメラ等の機器が必要ではないか。
- 患者側の医療機器について、医科は患者が一定程度準備する前提となっているが、歯科は通信機器等を医療関係者側が持っていくということの方が、より現実的ではないか。
- 仮に口腔内カメラ等の医療機器を患者間で共有とした場合、管理方法や衛生面、セキュリティについてどのように担保するか。
- 世代間格差でデジタルデバイドの影響があるのではないか。
- 口腔内カメラ等を用いた口腔内の映し方について、一定程度スキルが必要ではないか。
- 歯科衛生士等が来れないときに、医療機関や施設のスタッフ等で準備することも考えられるが、準備に要する時間や取扱い方に関する検討も必要ではないか。

＜セキュリティ＞

- 通信機器のセキュリティや個人認証などは重要ではないか。医科でのセキュリティ等に関する取組も活用しながら、歯科でも応用してはどうか。
- 大学のセキュリティ管理や感染対策のICTの委員会等を通して、携帯の中にSSL認証でセキュリティ管理ができるアプリ等を使用して大学と各地をつないで実施している例もある。

＜遠隔診療（オンライン診療除く）＞

- 地域ケア会議や多職種のカンファレンスにもオンラインは活用できるのではないか。

＜その他＞

- オンライン診療において、ボランティアで行うだけでは実施が難しいため、質を上げながら、費用面でもカバーすることは大切ではないか。